

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 (ひまわりユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200329		
法人名	医療法人社団 帰厚堂		
事業所名	グループホーム 敬寿荘 (ひまわりユニット)		
所在地	〒020-3614 紫波郡矢巾町又兵衛新田5-335		
自己評価作成日	令和5年11月30日	評価結果市町村受理日	令和6年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症予防対策は現在も継続しているが、対面での面会が15分という短い時間ではあるが許可されており、家族との交流は出来るようになってきている。誕生会や夏祭り等のイベントを企画し、5階南昌ホール・6階屋上を活用し楽しんで頂いている。ボランティア等の方々に来荘することはまだできないが、踊りを録画したDVDや敬寿荘で使う雑巾・新聞紙を頂いたり交流は続いている。運営推進会議を通して、入居者様の日常の様子や敬寿荘の現状等を報告し、情報共有に努めている。センター内においては診療所・訪問看護との医療関係が密に取れている他、管理栄養士との勉強会を毎月開催し、栄養面での助言を頂くなどの多職種との繋がりが継続している。また、2階こども園との幼老交流もコロナ禍初期に比べ少しずつだが増えてきている。グループホームとしてはホームページやキャラバンメイトの活動に参加して、小学校や公民館へ出向き認知症の知識を広める活動を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

矢巾駅に隣接する複合医療福祉ビルの5階に設置され、階下の診療所、老人保健施設、こども園、デイサービスなどの施設との緊密な協力関係が形成され、他職種との連携ができていくことが最大の長となつている。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、運営推進会議も参集方式で開催し始めたが、外部との接触には細心の注意を払っている。階上にある広い屋上を利用できることも他には無い強みの一つであり、またデイサービスの手車を利用したバスハイクの実施など安全に外気に触れるための工夫もある。隔月の利用者の写真を添えた手紙やプランの丁寧な説明により、家族からの信頼も厚い。全職員で話し合つて作成した理念「笑・穏・学・地」は覚えやすく浸透しており、辞める職員がほとんどいないなど、職員は自信と誇りを持って日頃の介護にあたっている。コロナ禍が明けた際には、理念にある「地(いつも地域の皆様と共に)」が活かされ、活発な地域交流が実践されることが期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての理念を掲げ、職員それぞれが共有し実践に繋げている。感染症の影響で地域との関わりを持つことは難しいが、徐々に外に出るように努めている。	現在の建物への移転の際、全職員で話し合い分かりやすい言葉にしたいとの思いから「笑顔、穏やかに、学ぶ、地域とともに」を理念とした。玄関やユニットごとに掲示し、常に意識しながらケアにあたっている。また、理念に沿った支援に向け年度目標を立てて実践し、年度末に評価するなど介護の質の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域との関わりを持つことは現在も難しいが、地域の方に存在をアピールすることはできている。	コロナ禍であるが、地区の婦人部との交流は続いており、集まって何かを行うことはできないが、事業所で使用する古新聞紙や雑巾をまとめて寄付してもらっている。以前は下の階のこども園の子どもたちによる幼老交流もあったが、現在はホールで行われる敬老会で子どもたちの遊戯を見ることができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアセンター南昌のホームページを活用し敬寿荘の概要、アルバム写真、認知症の豆知識などを発信している。また地域へ出向き認知症サポーター養成講座にも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は無事に対面での開催ができており、生の声で意見を聞くことができている。また利用者・利用者の家族も参加し、意見を聞かせてもらっている。	今年度から参集方式で開催している。利用者、家族の代表にも参加してもらい活発な意見交換が行われている。日常のケアに関する質疑が多く、コロナ禍ではあるが土を踏ませてほしいなどの要望が出されている。この意見に対しては、外部との接触に不安があることから、屋上を積極的に活用したケアを取り入れ、この意見の趣旨を活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活用し、状況や取り組みを報告できている。	町から会議に出席してもらい、意見のほか様々な情報提供をいただいている。町担当者とは介護関係だけでなく、防災分野のアドバイスもいただき、事業所からも情報提供するなど、良好な協力関係が形成されている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 (ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束になる行為について勉強会を行い適切なケアを行えるようにしている。	身体拘束を防止するための指針があり、委員会を開催するとともに3か月毎に研修会を開催している。直近の研修会は、ユニットごとのカンファレンスの後、担当する職員がスピーチロックについての資料を準備して行った。受講後には、感想を毎回職員に提出してもらい、次回の研修会時に報告し、共有で日常の支援に活かしている。安全のためのセンサーマットは家族の了解得た上で使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の勉強会と併せて虐待についても学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍により、研修へ出向く機会が減ってしまっているが、研修を受けたことがある職員から毎月の勉強会を活用して学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面(重要事項説明書・契約書)を用いて説明し、疑問へも答えながら同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々利用者とはコミュニケーションをとり要望を聞き取り、運営推進会議でも意見・要望を聞く機会があり、外部への情報共有もしている。また利用料支払い時にも家族から要望を聞いている。	コロナ禍もあって家族会も中止されるなど面会の機会が少なくなっている。隔月で利用者ごとの写真を添えた手紙を家族に送り、好評を得ている。運営推進会議の家族代表を固定せず、その都度お願いし広く意見や要望をいただけるようにしている。家族からは感謝の気持ちを伝えられることが多く、苦情の類が寄せられることは無い。	

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 (ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の意見なども毎月のカンファレンスでもらっている。また管理者と職員で個人面談を行うなど、話しやすい環境も作りながら聞き取っている。	日頃のカンファレンス等の場で職員から意見や提案を受けることが多く、実現できるものは直ちに実行している。また、前回の外部評価での助言に沿って、職員との個別面談を行っている。家族や職場の人間関係、資格の取得など様々な話があり、必要に応じて法人本部に伝えている。これからのリーダーの育成を一つの課題と考えている。	職員の意見を聞き、次代を担うリーダーの育成を目指し、法人としてのより充実した人材育成の仕組みを形成し、着実に実施されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は整備されており、労働時間等も職員間で声を掛け合いながら守っている。また各自の向上心を持てるよう内部・外部の研修参加も促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部・オンラインの研修への参加を促し、研修した内容を共有できるようにカンファレンスなどで報告してもらい、取り入れ可能な技術を活用できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	センター内でもなるべく階移動は自粛しており、密には交流できないが、委員会や研修会での交流をし意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度は事前調査も出来ており、事前の情報を元に不安なことや好きなこと等の要望を先に聞くことができています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、入居時にも十分に話をし、要望に応えるように努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 (ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を聞きながら、必要なサービスを利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分から進んで家事を行う方や、そうでない方もいらっしゃるが、世話をされているという感覚ではなく一緒に生活をしているという関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と情報交換し、共に利用者を支えてもらえるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は対面・ZOOM面会を完全予約制で行えるようになってきている。(15分の時間制限あり)また、利用者の要望時にも電話をするなどし、安心してもらっている。	友人・知人とも高齢になり訪ねてくることはなく、職員や理髪の方が新たな馴染みになっている。家族との調整がうまくいわずに自宅訪問できないこともあるが、馴染みの場所としての自宅周辺へドライブすることもある。以前利用者の多くが目にしてきたJAグループ出版雑誌を揃えている。また、個人で読み慣れた週刊誌を継続し購読している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でも得意・不得意はあり、職員が仲介しコミュニケーションを図ってもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後はケアマネージャーなどに話を聞きながら、本人や家族の経過を知り、情報を共有している。		

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 (ひまわりユニット)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者の気持ちを聞き出すように努めており、要望に応えられるようにしている。困難な場合は家族にも協力してもらいながら行っている。	ほとんどの利用者とコミュニケーションをとることが可能で、天気の話から入るなどの工夫をしている。言葉の理解が難しい利用者でも寒い痛い分かるので、職員間で情報共有しながら、快適に暮らせるよう寄り添った対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からケアマネージャーに話を聞いたり、家族にその人の好き嫌いを聞き、本人の求めている暮らしに少しでも近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を見守り、やりたいことはやってもらい、変化があった場合には対応し、職員間で共有し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で職員間の話し合いを行い、本人にとって最適なケアであるかを確認し合っている。またその情報は家族へも共有し、意見・要望を聞いている。	管理者とユニットリーダーが入居前調査を行い1か月の暫定プランで始め、観察期間を経て概ね3か月で見直している。居室担当を中心に気付いた点などを全員で話し合い、短期3か月、長期6か月の目安で計画案を作成している。その後、家族への説明をしているが、変更等の意見が出ることは無い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入するファイルを用意しており、気づいた事や変化があったことを共有することができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連絡を取り合いながら、対応していけるよう努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 (ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ地域へは自由に外出できないが、作品作りなどをし、地域の文化祭などに飾ってもらったり、ボランティアの方が踊っているDVD等を頂いたりと繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または家族が希望するかかりつけ医を受診している。	階下に診療所があり、ほとんどの利用者のかかりつけ医になっており、待ち時間なく受診することができている。皮膚科や眼科などは町内の診療所を受診し、精神科には家族と職員が同行して受診している。訪問歯科診療も利用しており、必要な医療が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の変化や気づいたことは主治医や訪問看護へも報告し、共有しながらケアしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	治療状況や退院の目処を病院担当者と連絡し合っている。また敬寿荘に来ず、家族に行く情報も共有できるものはしてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	明らかな重度化・終末期を感じられた場合、主治医とも相談しながら、家族との話し合いの場を設け今後の方針を話し合っている。また、本人・家族の希望に添いながらその人にとってもっとも良いケアができるようスタッフ間でもコミュニケーションを取り、統一できる支援に心掛けている。	利用者、家族からの要望も無く、法人として看取りを行う役割は今のこの事業所ではないというワーキング部会の考えもあり、重度化に際しては特養や老健施設に移るよう支援している。将来に向かって、職員の心のケアのための研修を行うことが課題と考えている。	同じ法人の医療関係者から「看取り」についての講話の機会を作るなど、今後に向けた研修につながることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、目の届く場所に置きいつでも対応・連絡できるようにしている。また、センター放送や博愛荘看護の応援を呼ぶ体制もできている。		

事業所名：グループホーム 敬寿荘（ひまわりユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難訓練や災害時の動きを訓練している。また地域との情報共有する体制もできており、近くの公民館にある物資等も知らせてもらっている。	複合施設全体での避難訓練を年2回実施している。堅牢な建物であることから外に出ることは控え、同じ5階のホールに集合する訓練としている。また、職員の呼び出し連絡訓練も実施している。発電機を備え7日分の食料も備蓄するなど万全の体制となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を守り、一人一人に合った声掛けを行い居心地が良い場所にしていく取り組んでいる。	利用者の尊厳を重視して、呼び掛け方や介護ケアの一つひとつに注意や配慮しながら取り組んでいる。プライバシーを守る観点から、顔写真は外部に出さず、それぞれのケース記録等はスタッフルームで厳格に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話からどのようなことが好きか、どんな事してきたのか、何かしたいことはないか等、利用者の希望を聞き少しでも意向に添ったケアを行い信頼関係を築くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を主人公とし、各自のペースを乱さないよう努めている。難聴な方が2名いらっしゃるが、筆談なども交えてコミュニケーションを取っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方は化粧や好みの服を着て頂き、介助が必要な方にも選択できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の材料を切ってもらったり、盛り付け、後片付けなど、できることはしてもらうようにしている。要望のあったメニューも献立に取り入れるようにしている。	献立は管理栄養士が作成したものに利用者の希望をアレンジして職員が調理している。食材は近くの店から毎日購入しており、利用者には盛り付けや片付けなどをしてもらっている。食卓にはスタッフも同席して一緒に食べている。お好み焼き、スパゲッティなどが好評で、皆で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は主治医へも共有できており、博愛荘の管理栄養士に相談し、アドバイスをもらいながら食事制限がある方にも対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 (ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には口腔ケアを促し、介助が必要な方でも始めは一人でやってもらい仕上げを職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひまわりユニットではリハビリパンツ使用者が5名、テープ止めが1名、他利用者は布パンツを使用している。職員は一人一人の排泄パターンを把握し、失敗をなるべく経験させないよう定期的な声掛けを行っている。	排泄の記録はタブレット端末に入力して管理しており、階下の診療所の端末にも繋がっている。車いす利用の方がオムツを使用しているが、他は布パンツ、リハビリパンツで自立している。入居後の定期的な声掛けなどで布パンツに移行し自立した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者一人一人の体調を確認しながら主治医や訪問看護へ相談し便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理な声掛けはせずに入りたい時に入ってもらっている。一人で入りたい方や羞恥心の強い方がいらっしゃる為、個々の希望に添って入浴してもらっている。	1日置きの入浴としているが、その時の状況に応じて順番の交代など柔軟に対応している。異性介助を嫌がる利用者は無く、一人で入浴する方もいる。入浴剤の利用、地元歌手のCDを聞きながらなど、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くなるまではテレビを見られたり、利用者同士で会話をされたりしながら時間をつぶされ、眠くなるまではその人のペースで過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用には十分に気を付け、変化があった場合は主治医へ報告している。また新しく処方された薬などがある場合は薬剤師からも注意点を聞きながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自で居室で好きなことをしたり、集まって作品を作ったり、隣のユニットへ行き気分転換を図る方もいたりとその方のペースで過ごしてもらっている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 (ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望には屋上や5階を活用し、バスハイクへは感染症予防を徹底し昼食を摂るなどの外部との接触を避け行っている。家族同行はまだできていないが、ボランティア(運営推進委員)には同行してもらったりと協力を得て支援している。	気分転換としての外出を大切に、外部との接触を極力避けるため、屋上に出ることを勧めている。デイサービスの車両を活用したバスハイクは感染症予防に注意しながら概ね2時間のコースで実施している。産直施設で買い物をすることもあり、お寿司を買って帰り施設内で食べている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々の買い物にはまだ利用者は同行できず、欲しい物などを利用者に聞き代わりに購入している。また、バスハイクに出かけた時には感染症予防を十分にしながらお店で買い物をしてもらった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時、または不安になっている時なども家族へ電話し、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が乱雑にならないよう整理整頓している。また入居者同士が会話しやすいような場所を提供している。換気を行ったり、季節の飾りを飾りながら季節を伝えている。	食堂を兼ねたリビングは、複合施設の最上階で明るく眺望も優れ、全館空調により温度などが保たれ、快適な空間となっている。複数のテレビ、多くのソファが配置され、利用者は思い思いに寛いでいる。壁面には手作りの作品や季節の飾り物があり、外の景色とともに季節を感じる事ができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りが好きな方は居室や食堂を活用し、仲の良い利用者同士ではリビングや居室を使用して過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみの家具や写真を居室へ持ち込んでもらい、本人と相談しながら配置等も決めている。	ベッドとダンス、床頭台、洗面台が備えられており、テレビや家族の写真、ぬいぐるみ、馴染みの家具などが持ち込まれている。居室も全館空調により快適に保たれており、掃除も行き届き利用者にとって居心地の良い空間となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 (ひまわりユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のわかること・できることを邪魔しないよう整理整頓したり、転倒・転落といった事故に繋がらないよう配慮している。		